

The Sinfonietta

ザ・シンフォニエッタ

第29回演奏会

29th Concert



指揮
藤崎 奈美



トランペット独奏
田尻 大喜

2016年10月1日(土)

熊本県立劇場コンサートホール

開場18:00 開演18:30



撮影：ユーゾークラシカルレコーディング

主催：ザ・シンフォニエッタ

後援：熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 熊本日日新聞社 NHK熊本放送局 RKK TKU KKT KAB FM791 FMK

公式ホームページ <http://www.the-sinfonietta.org/>

Profile



指揮 藤崎 奈美 *Nami Fujisaki*

九州大学教育学部卒業。

指揮を佐藤功太郎、下野竜也、曾我大介の各氏に師事。室内楽を豊嶋泰嗣、ヴァイオリンを藤松敦仁、ヴィオラを黒川律子の各氏に師事。

2007～2010年に豊嶋泰嗣氏の室内楽セミナーを受講。2010～2014年に上野学園大学主催「下野竜也による指揮マスター・コース」を受講。

2003～2010年、佐世保市児童管弦楽団（現アルカスSASEBOジュニアオーケストラ）の指導・指揮を務める。

2011年、サンクトペテルブルク国際指揮マスタークラスにてエンニオ・ニコラ氏（イリヤ・ムーシントクニック）の指導を受ける。

2013年、第34回霧島国際音楽祭の指揮クラスにて高関 健・下野竜也各氏のレッスンを受講。また第14回長崎県障害者芸術祭に於いて、ベートーヴェン作曲交響曲第9番第4楽章を指揮。

2015年、ドナウ交響楽団主催ブダペスト国際指揮マスタークラス・コンペティション2015にて優勝。アンドラーシュ・デアーク氏の指導を受ける。

これまでに、ロシアに於いてサンクトペテルブルク放送交響楽団、ペドロザヴォーツ・コンセルヴァトワールオーケストラ、サンクトペテルブルク・シンフォニーオーケストラ・クラシカ、サンクトペテルブルク・ステイト・シンフォニーオーケストラなどの演奏会を指揮。またルーマニアに於いて、ルーマニア国立コンスタンツァ歌劇場オーケストラの演奏会を指揮。

国内に於いては、これまでに、なかまフィルハーモニー管弦楽団、佐世保市民管弦楽団、福岡OBフィルハーモニーオーケストラ、九州工業大学交響楽団、諫早交響楽団を指揮。

トランペット 田尻 大喜 *Taiki Tajiri*

熊本県出身。

2012年東京音楽大学のトランペット科を卒業。

これまでトランペットを津堅直弘、栃本浩規、高橋敦、アンドレ・アンリ、井上圭、岡本憲昭の各師に師事。室内楽を林照世、山本孝、水野信行に師事。

東アフリカ国際音楽コンクールインターメディアイト部門第二位。全日本高校管打楽器コンクール優秀賞。霧島国際音楽祭にて高橋敦マスタークラス受講。東京音楽大学シンフォニックプラスにて台湾演奏旅行に参加。ドルチェ楽器新人演奏会にてソロリサイタルを行う。熊本県新人演奏会にオーディション合格者として出演。スぺーシアプラスにて、東京国際芸術協会オーディションにて合格。杉並公会堂にて新人演奏会に出演。名古屋フィルハーモニー管弦楽団、東京ニューシティー管弦楽団などにエキストラとして参加。

矢沢永吉 Sekai no owari などのLIVEサポート、bunkamura25周年記念 蜷川幸雄監督舞台「冬眠する熊に添い寝してごらん」に出演するなど幅広く活動している。

2013年11月に熊本県より奨学金を受けフランス、ドイツに短期留学。

2014年1月、熊本にて初のソロリサイタルを行い満席で好評を得る。

2014年8月、ドイツ、フランクフルトで行われたオペラクラシカ2014に参加。

2014年10月、国際青少年オーケストラフェスティバルinカンボジア、ラオスに参加。

アンコールワットやカンボジア国王の前でソリストを務めるなど海外での活動にも力を入れている。

2016年3月3.11東日本大震災復興支援チャリティーツアー「明日に咲く、笑顔の花」を行い音楽による被災地への支援も続けている。

桐朋音楽大学嘱託演奏員。芸劇ウインドオーケストラ。



ゲスト コンサート ミストレス 児玉 恵子 *Keiko Kodama*

エリザベト音楽大学音楽学部器楽学科管弦打楽器コースヴァイオリン専攻卒業。

その後、ウィーンにて研鑽を積む。ヴァイオリンを赤沢和美、守屋美枝子、中村英昭、太期晴子、エリーナ・スリス、ゲルノート・ヴィニョッフアー各氏に師事。

第14回倉敷児童音楽コンクール金賞。第50回福山音楽コンクール入賞。

青木カナ氏のレコーディング参加。サンパウロ美術館で声楽家イネス・シュトックラー氏と協演。

サンパウロ大学シュロモ・ミンツ特別マスタークラス受講。

管弦楽 ザ・シンフォニエッタ *The Sinfonietta*

1986年に結成された小編成のアマチュア・オーケストラ。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなどの古典派の曲を中心としながら、ロマン派、近代の曲なども演奏している。アンサンブルを楽しむため、小編成（50人以下）の特性を活かした選曲、演奏活動をしている。

これまでに共演した主な音楽家は、指揮者では本名徹二、山下一史、岩村力、藤崎凡、久保田悠太香、船曳圭一郎、萩原勇一などの各氏、ソリストでは安永徹 (Vn)、堀正文 (Vn)、篠崎史紀 (Vn)、小野富士 (Vla)、O.ボルヴィツキー (Vc)、小林道夫 (Cemb)、若林顕 (Pf)、合志知子 (Pf)、吉田秀晃 (Pf)、青柳晋 (Pf)、鈴木理恵子 (Vn) などの各氏で、すばらしい指導者・共演者に生まれ充実した活動をしている。

最近では2011年10月に若林顕氏の弾き振りでピアノ協奏曲3曲を一夜で演奏。また2012年9月には特別演奏会として歌劇「カルメン」演奏会形式に挑戦。山下一史氏指揮のもと県内外の歌手の方々と共演。合唱団も一般から募集し、初のオペラ演奏会は好評を得た。

2015年には、ソリストに日本を代表するヴァイオリニストの鈴木理恵子氏を招き、名曲と言われながら実演ではあまり聴く事のないベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を共演。室内乐的にソロとオーケストラの対話のような演奏に挑んだ。

今年創立30周年を迎え、これまでに培われた丁寧な音楽作りを心掛けながら、更なる歩みを進めている。



撮影：ユーツクラシカルレコーディング

●モーツァルト／「フィガロの結婚」序曲

——とても有名な曲ですが、今回はどのような演奏にされたいですか？

藤崎さん：「フィガロの結婚」は有名なオペラですが、でもこの序曲のメロディーは、オペラ本編の中には全く出てこないんですよ。完全に独立したシンフォニアなんです。華々しいオープニングを飾る曲なので、「本当に今からオペラが始まるぞ！」という気持ちでまずは演奏したいですね。そして(熊本の上向きになった空気をさらに明るく、アクセルを踏むきっかけにしたいですよ。

●フンメル／トランペット協奏曲 変ホ長調

——ソロを吹かれる田尻さんに伺います。この曲を選曲したのはなぜですか？

田尻さん：実はこの曲は僕が高校生の時にコンクールで吹いた曲で、熊本で一番時間を費やし練習した曲なんです。だから思い入れもとてもあって、ソロのお話をいただいた時に「地元熊本でやるのならフンメル！」と思いました。また古典音楽を演奏することの多いオーケストラだとも伺っていたので、ちょうど良いと思ったのです。

——田尻さんはこの曲をどういうふうに感じていますか？

田尻さん：「この曲って男性のテノール歌手のために書いたのではないかな？」と思えるところがあります。例えば2楽章の最初のロングトーンは、人の声のヴィブラートのようです。だからヴィブラートの延長線上のような気持ちであえてゆっくりとしたトリルで演奏しています。また自分の音楽としてお客様を楽しませたい気持ちから、今回、普通はあまり演奏されることのないカデンツァ(ソリストが伴奏なしで自由に演奏する部分)を入れて演奏したいと思っています。

——田尻さんは作曲もされるんですね。カデンツァは自作ですか？

田尻さん：はい、自作です。作曲は、夢で見た情景を曲にしたり、風景からメロディーが浮かんだりすることが多いです。

藤崎さん：風景といえば、2楽章の田尻さんの音を聴いてふと、夕暮れ時の河原で若者が一人トランペットを吹く姿が浮かんだんですよ。いろいろな困難や絶望の時に、その音色を聴いた人たちが勇気づけられて、前向きな気持ちになるというような。「これからの未来は若者が引っ張っていくんだ！」という、希望のようなものを感じました。

田尻さん：そう、その2楽章を経て、あの軽快な3楽章へ行くんです！

藤崎さん：そうそう、この曲が書かれた頃はまだウィーンで戦争が始まる前の時代、楽しい音楽が流行っていた時代だったんですよ。だから3楽章は、ワーツとお祭りのようにやっちゃっていいんです！(笑)

——ところでこの曲について、田尻さんから聴衆の方へ何かメッセージはありますか？

田尻さん：熊本ではまだ演奏会が出来ない、聴けない状況が続いています。今僕は曲を書いて復興支援の活動もしていますが、それは僕が東日本大震災の後に被災された方々の前で演奏した時、涙を流して喜んで下さった人がいて、“音楽家としてできることは、やっぱり音楽しかなくて、音楽をやっているんだな”と感じたからです。だから一音一音に心を込めて演奏したいです。そしてそれで勇気づけられたり、前向きな気持ちになって頂けたらと思います。

●メンデルスゾーン／交響曲第1番 ハ短調

——この曲は、演奏される機会が少ない曲だと思いますが…

藤崎さん：この曲の話をする前にメンデルスゾーン自身のお話ですが、メンデルスゾーンは一般的に、多くの作曲家の中でもとても恵まれていて、苦労知らずの人のように思われているふしがありますよね。でも私はそうは思いません。

彼はユダヤ人で、若い頃に随分嫌な思いもして途中で改宗をしています。そして宗教曲もたくさん書くんですよ。自分はユダヤ人だけど特別ではないと言いたかったんだと思います。

また親が教養をつけさせようと小さい頃から多くの勉強をさせてきました。メンデルスゾーンの父親は銀行家で、息子にその跡継ぎをさせようと考えていて、そのために必要な教養の1つとして音楽も教えていましたが、父親は決して息子を音楽家にしようとは思っていませんでした。

けれどメンデルスゾーンは音楽家になる方に気持ちが傾いていき、父親が敷いたレールには乗りたくないという半ば反抗の気持ちを込めて、その時の持てる力と知識を精いっぱい駆使してこの交響曲を作曲したのだと思います。彼が15歳の時です。父親はこの曲を聴いて息子の素晴らしい才能にようやく気付いたのではないのでしょうか。そしてその後17歳の時にあの有名な「真夏の夜の夢」が作曲されているのです。ただのお坊ちゃんだったらあのようなメロディーは生まれえないと思うんですね。

だからそういう固定観念は取っ払って、苦労人だと思ってメンデルスゾーンの曲を聴いてほしいんです。

——彼の音楽を聴くと、天才だと思うと同時に、淋しがり屋な一面もあったのではと思うのですが、その点はいかがですか？

藤崎さん：もちろん才能もあるけれど、ものすごく勉強もしている。努力の結果です。ちなみに彼の死因は過労死です。お姉さんの死がきっかけで体調を崩しながらも、休みなく働いていたのだと思います。それとすごく孤独も感じていたと思います。だからこそ（深いメロディーが）生まれたような部分も感じられます。

——この曲がなかなか演奏をされないということについてはいかがでしょうか？

藤崎さん：確かにこの交響曲第1番は、若さ故に未熟な部分も見受けられます。作曲上の構成とかオーケストレーションとかにです。

——でも逆に、若さゆえの良い部分もあるように感じますが。

藤崎さん：そうなんです。短い中にも波が何回も押し寄せるような、もしくは坂道でブレーキのきかない車が止まらないような、そんな衝動的な情熱やインパクトをこの曲には感じます。

またこの曲は、ベートーヴェンの交響曲第5番にも相当影響を受けています。それは随所に見受けられます。同じハ短調です。ちなみにメンデルスゾーンがこの曲を作曲したのは1824年。この年にあの有名な「第九」が初演されているのです。

——ベートーヴェンの他には、どんな音楽や作曲家に傾倒していたんですか？

藤崎さん：メンデルスゾーンは民族音楽には大して関心を示さず、イギリスには気に入って何回も行っていたにも関わらず、バグパイプにも大して興味を示しませんでした。ハンガリー音楽などにも関心はなかったようです。でもバッハの音楽は大変気に入っていて、バッハの音楽のなかに人間の本質な部分…人種に関係なく、人として共通する気持ちなどを見出し、純粋な音楽を追及したのだと思います。だからメンデルスゾーンの音楽は愛され、彼の葬儀にはベートーヴェンを上回る参列者がいたと言われていました。彼の音楽が民族や時間を越えて共感できる音楽だったからこそ、今でも人気があるのではないのでしょうか。

——最後にこの曲の魅力についてお願いします。

藤崎さん：この曲は若さで突っ走っている部分もありますが、そこに彼の音楽の原石を見るような気持ちで聴いていただけたらと思います。おそらく熊本では初演になるのではと思いますが、多くの方々に演奏してもらいたい、そして聴いていただきたい曲だと思っています。

——マイナーな曲だけれど、本当に多くの人に聴いてほしいですね。そして“走り出したら止まらないほどぼる若さ”をこの曲から感じてほしいですね！

本日はお話しいただき、ありがとうございました。

Members

ゲストコンサートミストリス

兒玉 恵子

1stヴァイオリン

岩橋 和江※

岡本 侑子

武智 久子

龍野 満里絵※

ブラッドリドナルド

富奥 史子

藤本 美希※

船津 真美子※

2ndヴァイオリン

打越 公美※

浦中 有紀

後藤 花乃子

高橋 弘行

田中 唱※

月田 理代

廣坂 薫

ヴィオラ

和泉 希代子

太田 由美子

佐藤 寛子※

龍野 珠美※

高木 大介※

吉田 幸恵※

チェロ

杉本 英治※

田畑 範明※

廣田 公美子※

馬原 ひろみ

森山 誠一

コントラバス

岡田 尚子

田中 真紀※

歳田 和彦※

姫路 夏子

フルート

大林 淳子

猿渡 みか

松島 里絵

オーボエ

橘 徹

松本 聡子

クラリネット

福島 由貴

府高 明子

ファゴット

上田 宏

柴田 義浩

ホルン

クープス 友美

トウメイ ジョゼフ

トランペット

福島 敏和

山口 博子

ティンパニ

釣谷 智美※

トレーナー

蓮沼 昇

山本 俊之

※は賛助出演(敬称略)

お知らせとお願い

♪ 団員募集のお知らせ

ザ・シンフォニエッタでは、現在団員を募集しております。
詳細は下記にお問い合わせください。

ザ・シンフォニエッタ代表：クープス 友美

携帯 090-7383-4953

メール nayo0704-103@docomo.ne.jp

ホームページ <http://www.the-sinfonietta.org/>

♪ 主催者からのお願い

1. ホール内での喫煙、飲食はかたく禁じられております。
2. 携帯電話等の電源、時計のアラームはお切りください。
3. 小学生未満の方のご入場はご遠慮ください。
また、お子様がお静かにできない場合は、「親子室」をご利用ください。
4. 演奏が始まりましたら、ホールの移動、座席の移動をお控えください。

♪ 次回演奏会のお知らせ

日時：2017年11月5日(日)

場所：熊本県立劇場コンサートホール

本日は、ザ・シンフォニエッタ第29回演奏会にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。
よろしければ、アンケートにご住所、ご氏名をお書きください。第30回演奏会のご案内をお送りしたいと思います。